

第78回「萩句会報告」 (順不同)

日時 2015年11月9日(月) 14時～17時

兼題「菊人形」「夜なべ」

- 川井素山 ○木漏れ日や紅葉を傘の切通し  
物語秘めて薫れる菊人形  
山の端に入り日かかりて雁の列  
秋の水注ぎて幽か琴の音
- 保井寶正 ○看護師の励ます声の夜業かな  
菊人形幼な負けじと見栄をきり  
ハロウィンの異文化馴染む秋の暮  
天空の未知の手紙や流星
- 青木英林 ○お会式のしんがり殿 過ぎて元の闇  
銀杏の落ちたままなり学生街  
大根引き思い切り抜く白さかな  
華やかにまた寂しげな菊人形
- 後藤克彦 ○手とどかぬ熟柿に鳥の歓喜声  
椋鳥の一群去りて散る木の実  
秋耕の取り残されし稲目立ち  
菊人形いつも定番武者姿
- 佐久間喬 ○熱闘終へ球場の椅子そぞろ寒  
眼鏡替へボタン繕ふ夜なべかな  
初りんご亡き友想ひ剥いてをり  
険しき坂どんぐり転げそこかしこ
- 丸山酔宵子 ○僧堂に響く警策菊日和  
荒塩に付けて一口衣被きぬかつぎ  
布を裁つ鋏の音や母夜なべ  
御空突く飛行機雲や菊日和

菊地崇之 ○切り干と妻は見えまし食すべし  
大根も我が家好みに味染まむ  
つま 夫介護小春陽雪ぐ御褒美に  
すす  
夜仕事や為させ指示施無為しと施せず

牧野里山 ○雨上がり黄葉踏みしめ<sup>そば</sup>咀の径  
白糸の滝の白さと紅葉かな  
夜なべして課題をこなし酒を飲む  
課題得て頭悩ます夜なべかな

吉田啓悟 ○この一樹あらんかぎりに紅葉す  
診断のかへり落葉を踏みしめる  
紙袋栗あたたかくひとつ喰ふ  
厚物も厚走りなき人形かな

佐久間たか子 ○遅れ咲く菊をまとうて甦る  
菊人形の歴史絵巻を語りけり  
夜なべしてかくも美し月もよし  
サクサクと黄金に染めて秋高し

山本草風 ○丹精を鎧にしての菊人形  
秋進む天才画家の山野かな  
故里を心にとめて赤トンボ  
満月が照らす翁のしわ深く

佐伯武雄 ○卒塔婆鳴く話しかけてる墓参り  
愚痴仲間時間忘れる夜なべかな  
赤い羽根願い一つの積み重ね  
すだち切るつまみ引き立つさわやかさ

金森純女 ○都鳥空の青さと切り結ぶ  
子の夜なべ母も眠らじ針を持つ  
手のひらに青き香りやかりんの実  
路地裏の箒の音や冬うらら

中山志津久 ○夜なべする母の横顔影絵みる  
万華鏡錦繡のもみじ筒の中  
絵手紙につわぶき一枝友の文  
指折って秋の七草数えてる

次回 「萩句会」

日時 2015年12月14日（月）14時～17時

兼題『飾り売り』一句

当季雑詠三句 計四句

場所 下目黒住区センター第二会議室